

NCGM PRESS



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
医療連携ニュース

National Center for
Global Health and Medicine Press

Vol.1
January



© YAYOI KUSAMA

みんなは平和を求めている
2013



前衛芸術家

草間彌生 Yayoi Kusama

幼少より水玉と網目を用いた幻想的な絵画を制作。1957年単身渡米、独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え前衛芸術家としての地位を築く。1973年に帰国後も全世界を飛び回り活躍中。美術作品の制作発表を続けながら小説、詩集も多数発表。2016年に文化勲章授賞。2017年より、ワシントンDCのハーシュホーン美術館彫刻庭園を皮切りに、北米ツアーが巡回中。

新年のご挨拶



国立国際医療
研究センター病院
病院長

大西 真

新 年明けましておめでとうございます。この1年の皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。地域医療にご尽力されている皆様方には常日頃、大変お世話になっており誠に有難うございます。本年は、医療・介護の同時改定と大変厳しい年を迎えますが、当院は高度急性期を担う医療機関として、なお一層の体制強化を図り、皆様との医療連携を強化する所存です。ここでたいへん恐縮ではございますが、当院の取り組みについてご紹介させていただきます。

当院は、第一に外科系の診療体制の強化を図っており、外科部門を、大腸肛門外科、食道胃外科、肝胆膵外科、乳腺内分泌外科に分け、高難度の手術件数が増加しています。乳腺の領域に関しては、乳腺腫瘍内科も整備し、乳腺センターを昨年10月に立ち上げました。

また、形成外科領域の進歩は目覚ましく、国際的に活躍している山本匠医師を昨年7月に招き、再建医療、リンパ浮腫治療のグローバル拠点を作ることを目指しています。泌尿器科では前立腺癌のダ・ヴィンチ手術を多数手掛けています。アメリカで活躍されていた宝来哲也医師を中心とする新しい心臓血管外科チームが、多数の難易度の高い心臓の手術を安全に実施しています。

さらに、がん診療にも力を入れています。高齢者、感染症や精神疾患など様々な合併症を持つ患者のがん治療は、当院の得意とするところ。がん連携拠点病院となりましたので、腫瘍科を新設し、がんのゲノム医療、個別医療（プレジジョン・メディシン）を推進する準備を進めています。

その他、入退院支援センター、メンタルヘルスセン

ター、人工関節センター、予防接種支援センター、総合感染症科を新たに立ち上げました。特に、薬剤耐性菌の問題は重要で、AMR（薬剤耐性）臨床リファレンスセンターを設置しました。一方で、国際感染症などの集中治療を可能とするため、特定感染症指定医療機関としての特殊病床（4床）のICU化を進めています。精神科リエゾンチーム、認知症ケアチームを立ち上げ、診療科横断的に診療を展開しています。

最後にリニューアルオープンした人間ドックセンターについてもご紹介いたします。運営状況はたいへん順調で、受診者の三分の一は外国人という当院の特徴も生かしながら、利用者の皆様から大変好評をいただいております。検診で発見された疾患に関しても、すぐに院内の専門医に紹介できる体制を整備し、専門外来に通院している患者さんも、人間ドックの受診を合わせることで、トータルケアが可能となります。

一方、国際診療部を設置してから外国人患者の受け入れは順調で、初診患者の12%、救急患者の15%は外国人で、都内の病院の中でも一番多くなっています。中でも中国人やベトナム人、ネパール人の比率が高いです。そのために、対面通訳や電話通訳、自動音声翻訳機の導入なども行っています。JMIPの認証に引き続き、Japan International Hospitalsの認証も取得しました。

ナショナルセンター唯一の総合病院として、その総合性をさらに高めながら、感染や糖尿病、国際協力といったミッションを実現させ、超一流の高度急性期総合病院を目指していきたいと思っております。引き続き皆様のご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

今月の旬菜



Season of this month



管理栄養士
神谷しげみ

脂ののっている冬が旬のたら。たらは定番の鍋料理をはじめとし、汁物、ソテーやムニエル、揚げ物などいろいろな料理に向きます。

たらは、鮮魚の中で最も低カロリーな部類に入り、三大栄養素ではタンパク質の割合が高く、脂質・糖質は非常に少ないため、ヘルシーです。ビタミン・ミネラル類も多いとは言えないものの白身魚類では比較的豊富に含まれています。

淡泊な白身魚であるたらもゆで卵入りのマヨネーズをのせることでバサつかず、しっとり焼き上がり、食べごたえが増します。玉葱・ピーマンなどの野菜をゆで卵入りのマヨネーズに混ぜ込むことでおいしく食べることができ、野菜の苦手なお子様にも好評で手軽にできるおすすめメニューです。大人向けにはお好みで辛子マヨネーズを利用しても良いでしょう。ぜひ一度、お試しください。

たらの卵マヨネーズ焼き

● 1人分のエネルギー 211kcal、塩分 0.8g

材料 (2人分)

たら…2切 (1切 100g程度) 塩、こしょう…各少々
卵…½個 (固ゆで卵1個の半分)
玉葱…½個 ピーマン…¼個
マヨネーズ…大さじ2
塩…小さじ½ しょう油…少々
ブロッコリー…4切 塩…少々



作り方

- 1 たらを両面に軽く塩・こしょうをまぶす。
- 2 卵1個を固ゆで (ゆで時間12分程度) にし、半分に粗めに刻み、玉葱・ピーマンはみじん切りにする。
- 3 2にマヨネーズ、塩、こしょうを加え、混ぜ合わせる。
- 4 耐熱皿に1をのせて、その上に3をかけ、オーブンまたはオーブントースターで10分焼く。
- 5 塩ゆでしたブロッコリーを添える。



乳腺内分泌外科
診療科長

多田敬一郎

平 成29年10月より乳腺内分泌外科診療科長として勤務します多田敬一郎と申します。どうぞよろしくお願ひします。私は元々肝臓外科医として研修していました。研修中に日本で一番乳癌症例数が多いがん研有明病院で勤務する機会があり、それがきっかけで自分の専門を乳腺外科と決めることができました。同病院8年間勤務し、乳腺診療の経験を積むことができました。その後8年間東京大学医学部附属病院で講師、准教授（診療科長）として、乳癌の診療、研究、教育に従事していました。専門は乳癌の外科診療ですが、早期乳癌の化学療法についても十分な経験があると自負しています。

私は乳腺外科という枠組みではなく、乳腺センターという枠組みで診療・教育・研究に従事してまいります。これは、私の経験だけでは、乳癌患者さんのニーズに応え切れなくなったからです。

乳癌の治療は手術よりもむしろ薬物療法が主体になってきています。市販された薬剤を安全に使うということであれば、私だけでも可能です。しかし、市販前の新しい薬の情報を手に入れたり、治験に参加したりするなどナショナルセンター病院として求められる水準に応えるのは困難です。今後乳腺内科医が乳癌診療の中心になると考えられます。当センターに乳腺内科が誕生したのは、この病院の財産になると考えます。

転移性乳癌に対する緩和や、乳房温存療法に対する局所制御のため放射線治療医は必須です。近年は放射

線療法の生存に対する有用性が明らかになっています。無理な温存で大きく変形した術後乳房に対する反省と、人工物乳房再建が保険収載されたこともあり、乳房切除・同時再建の症例が日本全体で飛躍的に増えています。形成外科医との協調が必要です。

こうした乳癌の診療は正しい病理診断がなければ成り立ちません。乳腺疾患に精通した病理医の存在も必須です。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群の方は文字通り乳癌や卵巣癌になりやすいことがわかっています。予防的に卵巣卵管を切除することにより生存率が改善することがわかってきました。婦人科医や遺伝カウンセラーと協力する必要があります。

乳癌の診療が進歩したとはいえ、再発し、終末期を迎える患者さんがいることは否定できません。種々の要求に適切に対応できるのは緩和ケアに精通した医師・看護師です。

このように乳癌診療のためには、多岐にわたるスキルを持ったスタッフがチームを組んで治療にあたる必要があります。乳癌診療にチーム医療が必要な所以であり、乳腺センターである意義はまさにこの点にあります。

私は国立国際医療研究センター病院乳腺センターが発展して、チームによる乳癌診療が根付くことに全力を挙げたいと思います。皆さまの暖かいご支援をよろしくお願ひ申し上げます。



肝胆膵外科
診療科長

竹村信行

み なさま、はじめまして。平成29年9月1日付で肝胆膵外科に着任致しました竹村信行です。これまで、東京大学肝胆膵・人工臓器移植外科、三井記念病院外科、がん研有明病院肝胆膵外科、JR東京総合病院消化器外科で勤務しておりました。これらの施設において、膵癌・胆道癌などの難易度の高い手術、原発性肝癌、大腸癌の肝転移に対する肝切除術から非大腸癌を原発とする肝転移の手術まで、さらには膵神経内分泌腫瘍の治療などに取り組んできました。また、急性胆嚢炎に対する緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術、鼠経ヘルニアに対する腹腔鏡下ヘルニア修復術も多く経験し、低悪性膵腫瘍には腹腔鏡下膵切除術、比較的肝の辺縁に存在する肝腫瘍には腹腔鏡下肝切除術と、腹腔鏡の手術も積極的に行ってきました。

国立国際医療研究センター病院の肝胆膵外科では、肝臓、胆嚢、膵臓の悪性・良性疾患に対する手術の他、鼠経ヘルニア、腹壁癭痕ヘルニアに対する手術も行っております。

膵癌・胆道癌に対しては、根治性を期待する必要十分な手術を、低悪性膵腫瘍には腹腔鏡下の膵切除を行

います。肝切除に関しましては、巨大腫瘍や腫瘍脈管に浸潤する腫瘍には左右肝切除、拡大肝切除を行いますが、肝の辺縁に存在する病変に対してはできるだけ肝を残した部分切除や腹腔鏡下肝部分切除など、腫瘍の進行度と肝機能に応じた手術を心がけています。腫瘍の進展度合いに応じて、膵頭十二指腸切除を伴う肝切除や、門脈塞栓術を行った後の拡大肝切除（切除側の門脈を塞栓し、残る側の肝を肥大させた後の肝切除）も行っています。術前、術後の化学療法も腫瘍科、消化器内科と協力して積極的に行っています。

また、炎症性疾患である急性胆嚢炎に対して、手術の至適タイミングと患者さんのQOLを考え、できる限り緊急で腹腔鏡下胆嚢摘出術を行っています。良性疾患である鼠経ヘルニアの手術では、従来から行われている鼠経法手術から、腹腔鏡下ヘルニア修復術まで、患者さんのリスクと病気の状態に応じた術式選択を行っています。

みなさまにおかれましては、待機的な患者さんから緊急の患者さんまで、患者さんのご紹介、治療の相談、セカンドオピニオンなどお気軽にご紹介頂けますと幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願ひ致します。

 Nursing Information



全国糖尿病週間のイベント、 無料健康相談を開催しました

11月14日は世界糖尿病デーで、毎年この日を含む1週間を全国糖尿病週間としてイベントを行っております。当センターでも市民公開講座や血糖・体組成測定、無料健康相談を開催しました。区報やHP、新聞を見て来院された方や、当センターに通院・面会の方など多くの参加者でにぎわいました。「糖尿病ではないけど血糖値を測ってくれるの?」とお話しされる方も多くいました。

健康診断や献血などで血糖値やGA、

HbA1cを測る機会が増えているとはいえ、そういった機会を得られない方もいます。今後もこのようなイベントを通して地域住民の健康意識を高める関わりをもち、当センターの役割を果たしつつ、連携医の先生方やコメディカルの皆様と連携を取りながら、地域住民の健康維持に繋げていきたいと思っております。

当院では、短期間の糖尿病教育入院も可能ですので、患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。



診療時間・アクセス

外来診療時間 8:00~17:45

初診受付 紹介状が無い場合 8:30~11:00
紹介状が有る場合 8:30~14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

休診日 土・日・祝日・年末年始

アクセス 都営地下鉄大江戸線 若松河田駅より徒歩5分
東京メトロ東西線 早稲田駅2番出口より徒歩15分
JR大久保駅 又は 新大久保駅より都営バス新橋行、
JR新宿駅西口より都営バス医療センター経由女子医大行
[国立国際医療研究センター前]下車

HP <http://www.ncgm.go.jp/>

